

WFOT：作業的ナラティブデータベースプロジェクトと作業理解

近藤知子

杏林大学保健学部作業療法学科

【ワークショップの目的】

「人が日常生活で行うこと (doing)や、存在すること(being)」は、作業療法士が最も関心を寄せる領域の一つです。WFOTは、現在、作業的ナラティブデータベースプロジェクト (Occupational Narratives Database Project) として、作業療法士・作業療法学生の協力のもと、人が日常的に行うことの映像と語りのショートビデオを集め、世界作業療法連盟のオープンアクセス資料としてデータベース化するプロジェクトを行っています。データベースを通し、世界中の人の作業について、その作業独自の文脈や個人個人の意味を知ることができます。本ワークショップでは、このプロジェクトを紹介し、参加者の皆さんに自分の作業の振り返りを行っていただくことで、作業の理解を深めることを目的とします。また、興味のある方に対しては、作業ナラティブデータベースプロジェクトへの参加の方法をお伝えします。

【ワークショップの定員】

制限はありません。

【ワークショップの概要】

ワークショップは、まず、WFOTの作業的ナラティブデータベースプロジェクトの概要および、作業療法士、学生、研究者がこのデータベースをどのように活用し得るかを、WFOTが作成したビデオ映像を用いながら説明します。次いで、世界の作業療法士、作業療法学生が作成したショートビデオを紹介し、作業を見つめるにあたってのポイントを説明します。説明をもとに、自分の日常生活における作業の振り返りを行い、その後グループに分かれて、自分の作業についての説明・質疑応答をすることで、自らおよび他者の作業理解を深める経験をします。最後に、再び、全体で集まり、WFOTプロジェクトに参加し、自分の作業的ナラティブのショートビデオをデータベースに掲載することを希望する方には、ビデオ作成の具体的なコツ、掲載の方法についてお伝えします。ワークショップの時間は、60分から90分を希望します。

【ワークショップに必要なもの】

自分にとって意味のある作業の写真を携帯やコンピュータなどに入れてご準備いただくと、振り返りやグループワークが実施しやすくなります。

作業的写真プロジェクトの改善

小田原悦子, 鴨藤菜奈子, 馬場博規, 鹿田正隆
ウチソト勉強会

作業は日常の状況や人生の中に潜み変化する。複雑で目に見えない。そのために、その理解は難しい。作業の理解を促す目的で、写真と会話を使って、身近にある作業の形態、作業の機能、作業の意味に焦点化した作業の見方を「作業的写真」プロジェクトという名称で、学生や臨床家を対象に紹介してきた（小田原, 2012 : 2015）。作業に現れるその人らしさ、その作業の力強さ、日常生活に溶け込んでいることは理解しやすくなったが、半面、作業と健康やウェルビーイングがどのようにかかわっているのかが、把握しにくいことがはっきりしてきた。

今回、作業的写真プロジェクトを改善したので、本企画で報告する（小田原, 2021）。写真を共有しながら、会話を交わし、作業の話を傾聴し、日常にある作業の形態、機能、意味を明確にし、作業と健康やウェルビーイングへの効果を理解するという方向はそのままである。今回の改善点は、「作業的存在としての人間のモデル」（Clark, 1993, p. 51）を使って、作業の見方の理論的基盤を論じた点である。それを踏まえて、作業の形態、作業の機能、作業の意味を日常生活や人生のレベルでわかりやすく語り直し、実際のケースを多数紹介した。

【ワークショップの目的】改善した「作業的写真」プロジェクトを紹介する。作業の見方の理論的基盤を明確に提示し、わかりやすく解説する。参加者には演者が準備した写真とインタビューを使って、作業の見方に取り組んでいただく予定である。

【ワークショップの定員】20人まで。

【ワークショップの概要】

1. 本プロジェクトの改善点、作業科学に理論的基盤を置いた「作業の見方」の解説
2. 写真と話を使ったプロジェクトの実演
3. 参加者は提示される話を使ってプロジェクトを経験する

【ワークショップに必要なもの】準備として、演者の近著（下記）を一読いただければ、ワークショップの理解が深まりますので、お勧めします。

他のウチソト勉強会のメンバーにも協力頂いた。深謝する。

【文献】

Clark, F. (1993). Developing an academic discipline: The science of occupation. In H. Hopkins & H. Smith (Eds.), Willard and Spackman's Occupational Therapy (pp. 44-57). Philadelphia: Lippincott.

小田原悦子 (2012). 日常生活における作業的存在の写真：身近な作業を理解するために。作業科学研究, 6, 46-47, 2012.

小田原悦子 (2015). 作業の視点を磨く～臨床で働く作業療法士のための作業的写真ワークショップ～. 日本作業療法学会抄録集 49:80-80, 2015.

小田原悦子 (2021) 作業を基盤に、我々の健康と幸福を考える「作業的写真」プロジェクトとは。幻冬舎.

作業レコードを使ってみよう

高木 雅之

県立広島大学 保健福祉学部 保健福祉学科 作業療法コース

【ワークショップの目的】

1. 作業レコードの基本的な使い方や作業療法への応用方法を理解すること
2. 実際に作業レコードを使ってみて、作業経験を共有すること
3. 作業レコードの可能性を検討すること

【ワークショップの定員】

30名

【ワークショップの概要】

作業レコードは、「血圧を血圧計で測るように、作業を自分で簡単に測りたい」と思い、開発しました。作業レコードは、日々の生活に埋め込また作業に焦点を当て、作業経験をセルフモニタリングするためのツールです。作業レコードを使うことで、普段何気なく行っている作業の大切さに気づくことができます。そして、自分にとって大切な作業は何か、その作業の意味は何か、自分が大切にしている作業観はどのようなものかに気づくきっかけになります。

作業レコードは一人で使用することもできますし、集団で使用することもできます。集団で作業レコードを使うことで、作業経験を他者と共有することができます。作業経験を共有することは、お互いを理解し、関係を深めることに繋がります。

2019年には、地域在住の健康な高齢者125名を対象に、集団で作業レコードを使用し、作業経験を他者と共有するプログラムの効果を検証するランダム化比較試験を行いました。その結果、プログラムに参加した群の作業満足度、生活満足度、生きがい感が、プログラムに参加していない群と比較し、有意に向上していました(高木他, 2020)。

今回のワークショップでは、作業レコードの基本的な使い方や作業療法に応用したプログラムを紹介します。そして、実際に作業レコードを使ってみて、参加者同士で作業経験を共有する体験もできればと考えています。ワークショップを通じて、作業レコードの新たな可能性が見つかることを期待しています。

【ワークショップに必要なもの】

参加登録者の方には作業レコードを事前に配布しますので、1週間程度使用してからワークショップに参加していただくと、グループワークがやりやすくなります。

【文献】

高木雅之, 其阿弥成子, 織田靖史, ボンジェ ペイター (2020). 活動日記を用いた集団プログラムが地域在住高齢者の作業に対する満足度に与える効果—ランダム化比較試験—. 作業療法, 39 (4), 301-310.